

GROUP PROFILE 2024



グループ理念

三菱ケミカルグループ[※]は2011年から、KAITEKIを掲げ続けてきました。KAITEKI実現が私たちのPurposeです。

このグループ理念のもとで成長を実現し、企業価値を向上させることにより、顧客や株主の皆さまを始めとする全てのステークホルダーへ貢献していきます。

※「三菱ケミカルグループ(MCG)社」は三菱ケミカルグループ株式会社を指し、「三菱ケミカルグループ(MCGグループ)」は三菱ケミカルグループ株式会社とそのグループ会社を指します

Purpose

Purposeは、MCGグループが何をめざし、なぜ存在するのかを示したものです。MCGグループを導く「北極星」として掲げ続けてきたKAITEKIの実現に向けた力強く前向きな意志と、ステークホルダーに対する私たちの約束を表しています。

**私たちは、革新的なソリューションで、
人、社会、そして地球の心地よさが続いていく
KAITEKIの実現をリードしていきます。**

Our Way

Our Wayは、Purpose実現に向けてMCGグループの全員が大切にすべき心構えで、日々の業務遂行や意思決定に当たって常に意識し実践します。

誠実 Integrity

- 安全を最優先する
- 正しさを貫く
- 誇れる仕事をする

尊重 Respect

- 感謝の心を示す
- 互いの違いを認め合う
- 人と社会、地球を思いやる

果敢 Bravery

- 柔軟に発想する
- 決断し、迅速に動く
- 失敗を恐れず、挑戦を楽しむ

共創 Collaboration

- 強みをかけ合わせる
- 信頼を築き上げる
- チームワークを称える

完遂 Persistence

- 自分自身がやりとげる
- ステークホルダーに新しい価値を提供する
- 未来に責任を持つ

KAITEKI Vision 35

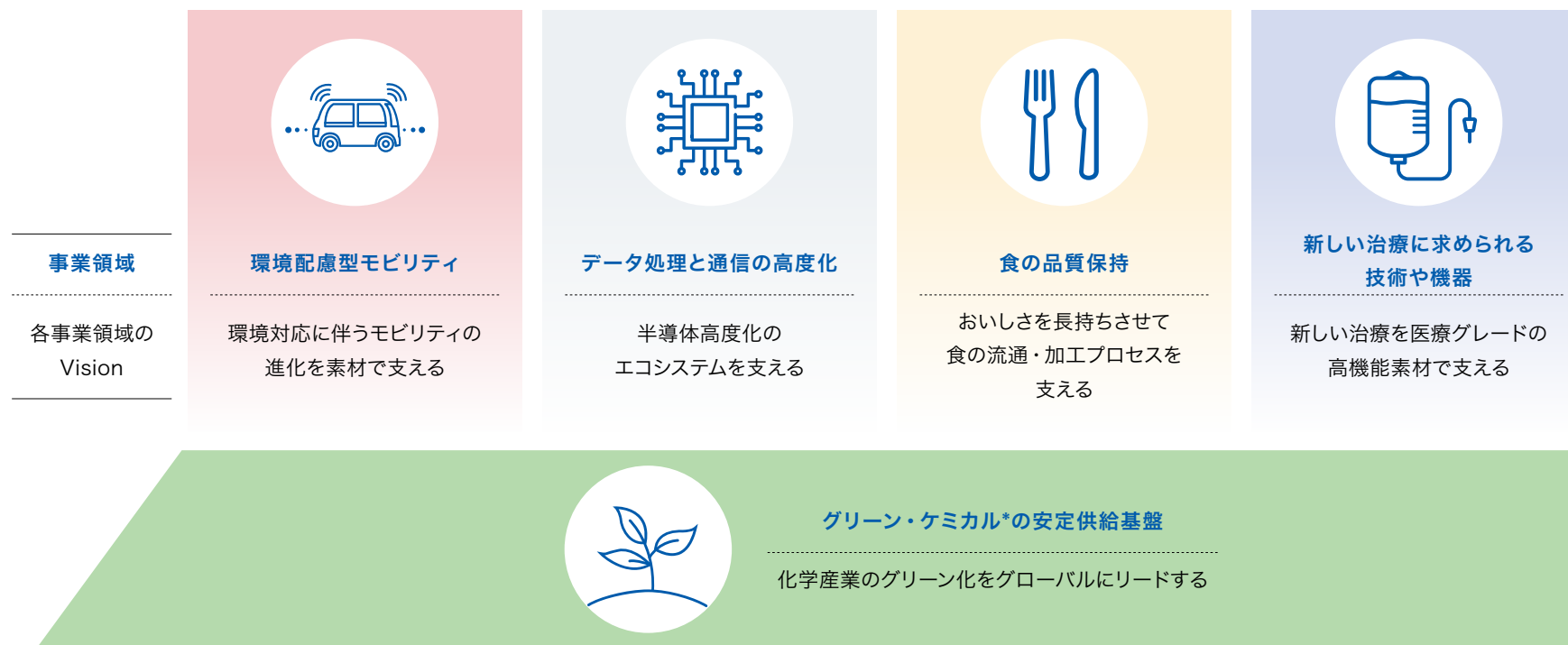
三菱ケミカルグループは、2035年のありたい姿を描いた経営ビジョン「KAITEKI Vision 35」を策定しました。

私たちの強みが活かせる5つの注力事業領域とそのVisionを明確にし、社会が求める最適なソリューションを提供し続けるグリーン・スペシャリティ企業をめざします。

2035年のありたい姿

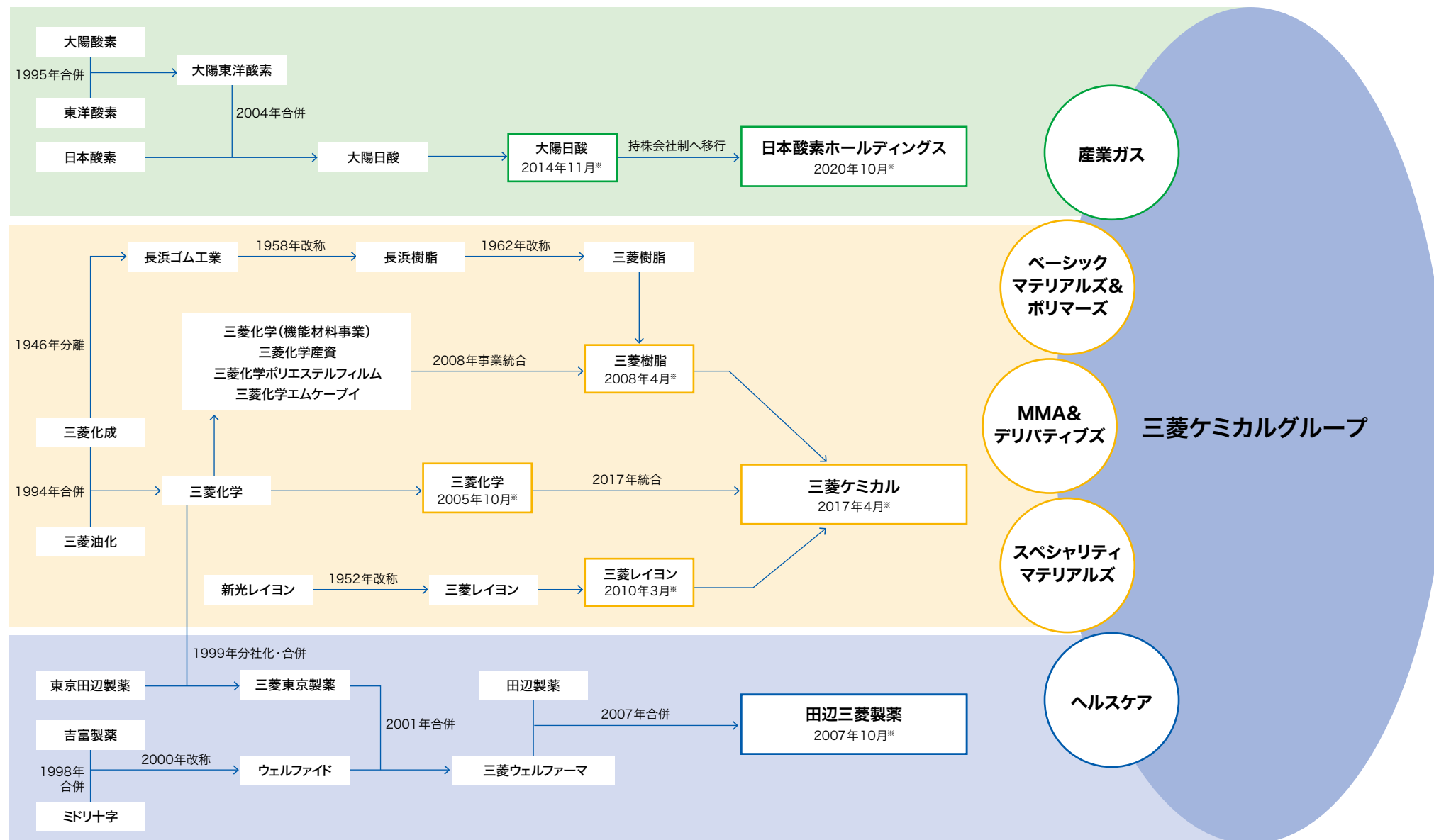
社会課題に最適なソリューションを提供し続け、
素材の力で顧客を感動させるグリーン・スペシャリティ企業

5つの注力事業領域とそのVision



* 自社製品および顧客製品の環境負荷を低減する基礎化学品およびその誘導品

三菱ケミカルグループの変遷



※ 三菱ケミカルグループへの参画時期

事業紹介

三菱ケミカルグループはスペシャリティマテリアルズ、MMA&デリバティブズ、ベーシックマテリアルズ&ポリマーズの3つのケミカルズ事業にファーマ、産業ガスを合わせた5つの事業を展開しています。

スペシャリティマテリアルズ

三菱ケミカル株式会社

スペシャリティマテリアルズでは、モビリティやライフソリューション、エレクトロニクスなど、さまざまな領域に属する数多くの成長市場をターゲットに製品やサービスを展開しています。これまで多様な事業で培ってきた技術力や市場展開力を活かし、幅広い領域で新たな価値を提供していきます。



MMA&デリバティブズ

三菱ケミカル株式会社

MMAは、主要3製法を世界で唯一保有し、約30%の世界シェアを誇る三菱ケミカルグループのコア事業の一つです。塗布や混ぜ込みによって性能を向上させるコーティング材料や添加剤についての深い知見を持ち、さまざまな製品を提供しています。これからも市場や顧客の持続可能性に寄与する製品や、代替不可能な特性を持つ製品の開発を続けていきます。



事業紹介

ベーシックマテリアルズ&ポリマーズ

三菱ケミカル株式会社

ベーシックマテリアルズ&ポリマーズでは、エチレンなどのオレフィンから各種基礎化学品・ポリマーなどの誘導品まで幅広い石油化学製品と、コークス・カーボンブラックなどの炭素製品を製造・販売しています。高い技術で製造されたこれらの製品は、さまざまな産業や社会を力強く支えています。非枯渇資源を含めた原料多様化を進めつつ、常に時代のニーズに合わせた体制で事業を展開しています。



ファーマ

田辺三菱製薬株式会社

1678年に創業した田辺三菱製薬は、医療用医薬品事業を中心とする製薬企業として、最も歴史ある老舗企業の一つです。「病と向き合うすべての人に、希望ある選択肢を。」をMISSIONとし、これを実現するため、中枢神経、免疫炎症、糖尿病・腎領域に加え、がん領域にも取り組んでいきます。



産業ガス

日本酸素ホールディングス株式会社

日本酸素ホールディングスグループは「The Gas Professionals」として多種多様な産業分野において、それぞれの企業活動の基盤を産業ガスで支えています。革新的なガスソリューションとアプリケーションを通じて社会的価値を創造し、産業の生産性を高め、人々の豊かで健康な暮らしと、より持続可能な未来の実現に貢献します。



イノベーション

より速く、より大きな価値を生み出すために

注力市場へ重点的にイノベーション資源の配分を行い、私たちが蓄えてきた技術や情報などの知的資産を基盤に事業モデルに適したイノベーション活動を行うことで、より速く、より大きな価値を生み出していきます。

顧客価値と技術を軸として、それを“新規”と“既存”に分けた4つの領域について、それぞれの特性に基づくイノベーション戦略を推進しています。

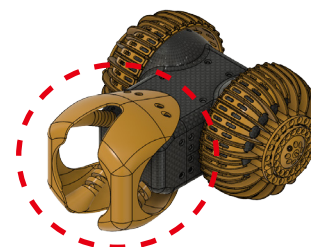
顧客価値	新規	<h3>新用途開拓</h3> <p>顧客特有の課題を的確に把握し迅速に対応することで、新用途の開拓を進めていきます。自社技術の強みを活かし、顧客への価値提供のあり方を追求します。</p>	<h3>フロンティア</h3> <p>オープンイノベーションなども活用し、当社グループ事業の枠を超えた新しい市場へ挑戦します。不確かで変化の激しい時代において、多様な機会を感度良くとらえて活かし、また既存事業に対する脅威にも備えていきます。</p>
	既存	<h3>製品供給拡大</h3> <p>高度な生産技術を活かし、所定スペック製品の安定生産、供給拡大を追求します。</p>	<h3>次世代製品開発</h3> <p>当社グループ独自の差異化技術を活かし、顧客のロードマップ達成などに寄与する高度化した次世代製品を開発します。</p>
		既存	新規
技術			

新用途開拓型の開発事例

三菱ケミカルグループでは、強みである素材知見に構造設計・最適化シミュレーション技術を融合した新たなアプローチとして、コンプライアントメカニズムを活用した製品開発を推進しています。

コンプライアントメカニズムとは、弾性を持つ素材で製品を一体的に成形することで、力や運動をしなやかに伝達し、機能を発現させる設計概念です。従来の組み立て成形品と比較し、動作正確性の向上、パーツ数削減、リサイクル性の向上などの特長を持った部材設計が可能です。

株式会社ダイモンが開発中の月面探査車YAOKIの部材は、耐衝撃性が必要とされながら、輸送コストの点で重量増加につながる高剛性設計ができないという課題がありました。MCGグループで、コンプライアントメカニズムの概念を取り入れた設計を行い、素材から構造を見直すことで、重量増加を抑えつつも従来品と比較して耐衝撃性が著しく向上したモデルの設計に成功しました。設計した部材は複雑な形状なので通常の射出成形では造形できませんが、当社グループの保有技術を用いることで射出一体成形することができ、YAOKIに採用されました。

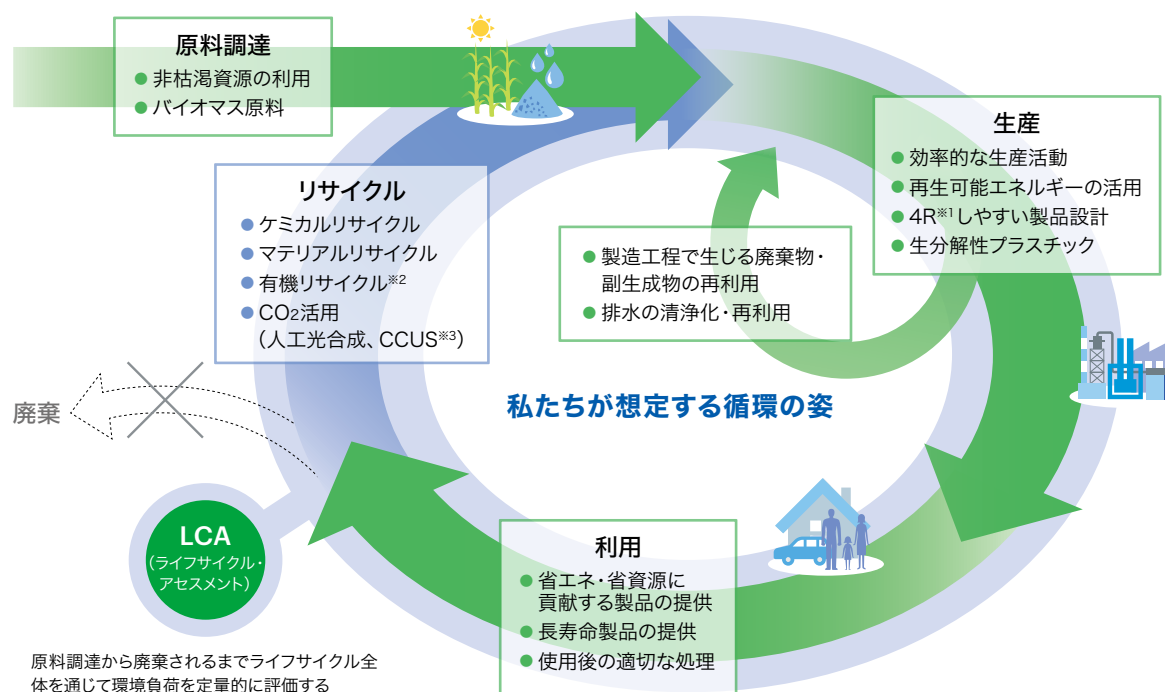


サステナビリティ

サーキュラーエコノミーを推進し、持続可能なオペレーションを実現

私たちは社会価値と経済価値をクロスオーバーさせ、グループ横断的にサーキュラーエコノミーを推進しています。

GHG排出量削減、サステナビリティ関連製品の売上収益、廃棄物・水資源マネジメントに対して具体的な目標値を設定し、2050年までにGHG排出量を実質ゼロとします。



取り組み事例

ガスバリア材料がリサイクル可能素材としての認証を取得

食品の風味や品質を長持ちさせることでフードロス削減に貢献するガスバリア材料は需要が拡大していますが、資源循環の観点から、包装材として広く使用されるポリエチレンなどのリサイクルに影響を与えない材料が求められています。三菱ケミカルのニチゴーGポリマー™は、リサイクル可能な素材としての認証を欧州で取得しました。今後もサステナブルな社会の実現に貢献していきます。

CO₂回収装置の開発

大陽日酸ではガス分離精製技術を活かし、N₂とCO₂の混合ガスなどから、CO₂を分離する装置を開発し、販売を開始しました。CO₂分離特性に優れた吸着剤と制御システムを採用したPSA※装置で、効率の良い運転を実現しています。

※ Pressure Swing Adsorption (圧力変動吸着)

※1 Reuse, Reduce, Recycle, Renewable

※2 コンポスト化やメタン発酵などで有機物を得る技術

※3 CO₂を回収し、放出させない技術

※4 対2019年度比

※5 サステナビリティに資する製品、特に気候変動、循環型経済、食糧供給、水資源保全など

項目	目標値
GHG排出量削減	2030年度までにScope1 & Scope2の排出量を 29% 削減。※4 2050年実質ゼロを達成
サステナビリティ関連製品※5	2025年度までに、売上収益の 20% に
廃棄物・水資源マネジメント	2025年度までに、埋立廃棄物を 50% 削減※4

会社概要

2024年3月期

三菱ケミカルグループ株式会社

Mitsubishi Chemical Group Corporation

本社所在地 …… 〒100-8251 東京都千代田区丸の内1-1-1 パレスビル

設立日 …… 2005年10月3日

資本金 …… 500億円

上場 …… 東証プライム

事業内容 …… グループ会社の経営管理(グループの全体戦略策定、資源配分など)

連結売上収益(IFRS) …… 4兆3,872億円

連結コア営業利益(IFRS) …… 2,081億円

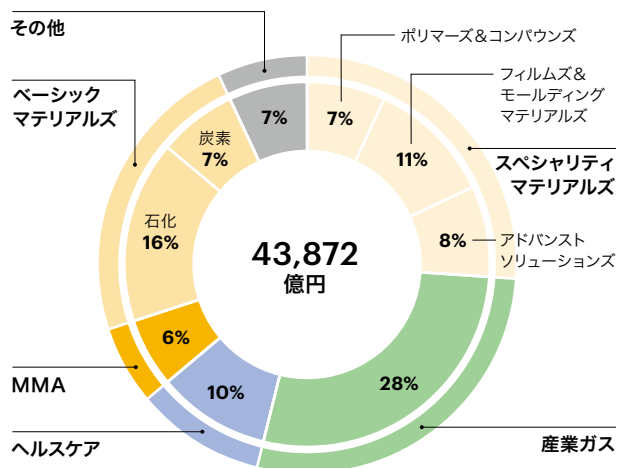
連結従業員数 …… 66,358名



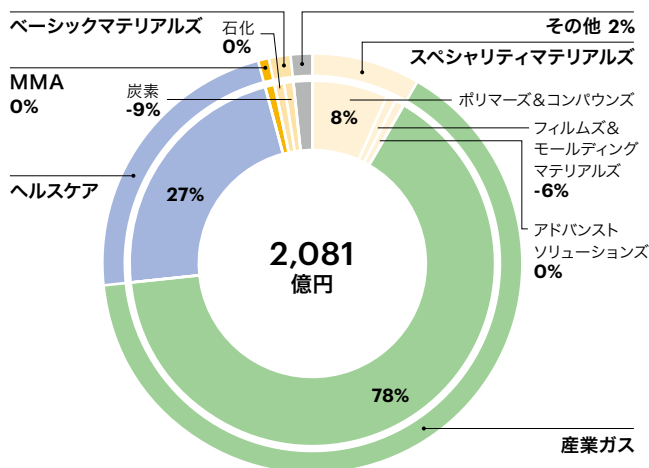
三菱ケミカルグループ
ウェブサイト

業績ハイライト

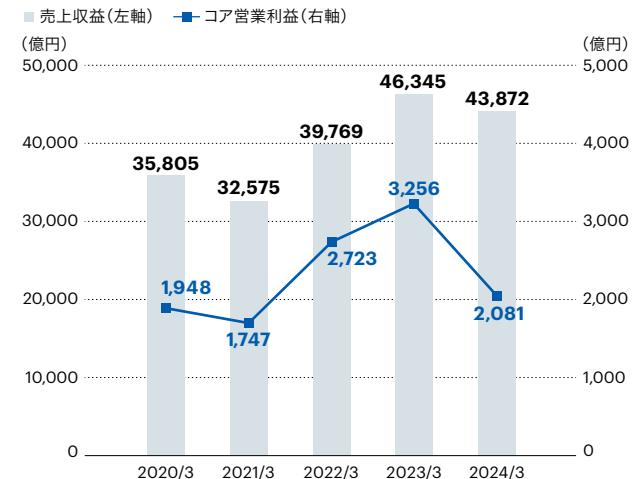
売上収益



コア営業利益



連結業績の推移

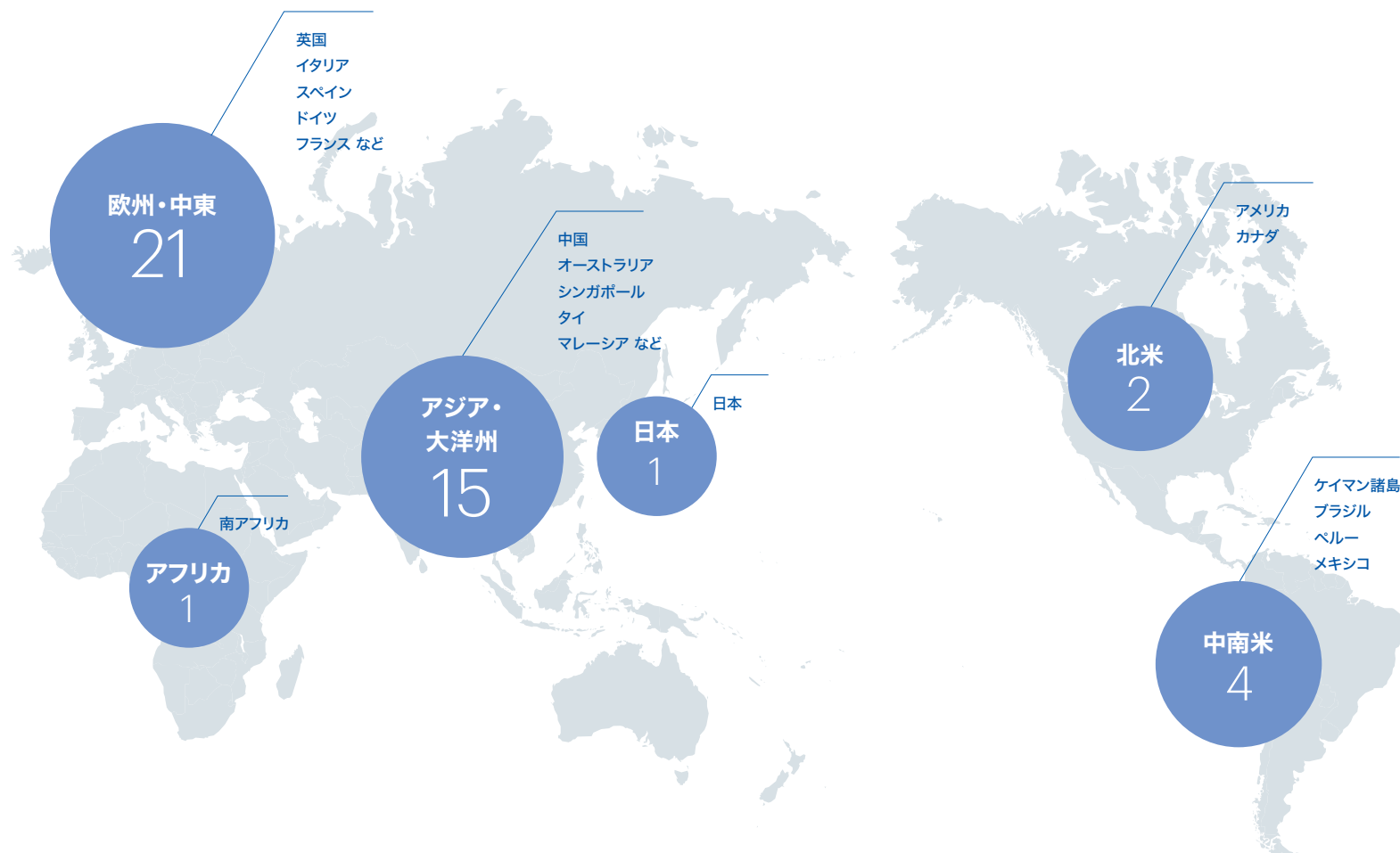


グローバルネットワーク

2024年3月期

グループ拠点(所在地・地域数)

44カ国・地域



関係会社

552社

エリア別売上収益比率

日本 50% 海外 50%

三菱ケミカルグループ株式会社

2025年1月発行

- 本会社案内記載の内容については、予告なく変更することがありますのでご了承ください。
- 本会社案内からの無断転載を禁じます。